

世界が進むチカラになる。



第1回

国内皮革産業の維持・発展に向けた検討委員会

**国内皮革産業のあるべき姿と  
行動目標・ロードマップの構成要素  
(案) ※議論用**

# 国内皮革産業を取り巻く環境変化・課題等

～将来像・ロードマップ検討で念頭に置く主な課題等～

- 国内皮革業界の現状では下記の個々の課題に個々の事業者の対応では解決が困難
- 新たな商流・強靱なサプライチェーンの再構築等、業界・周辺業界全体での対応が必要

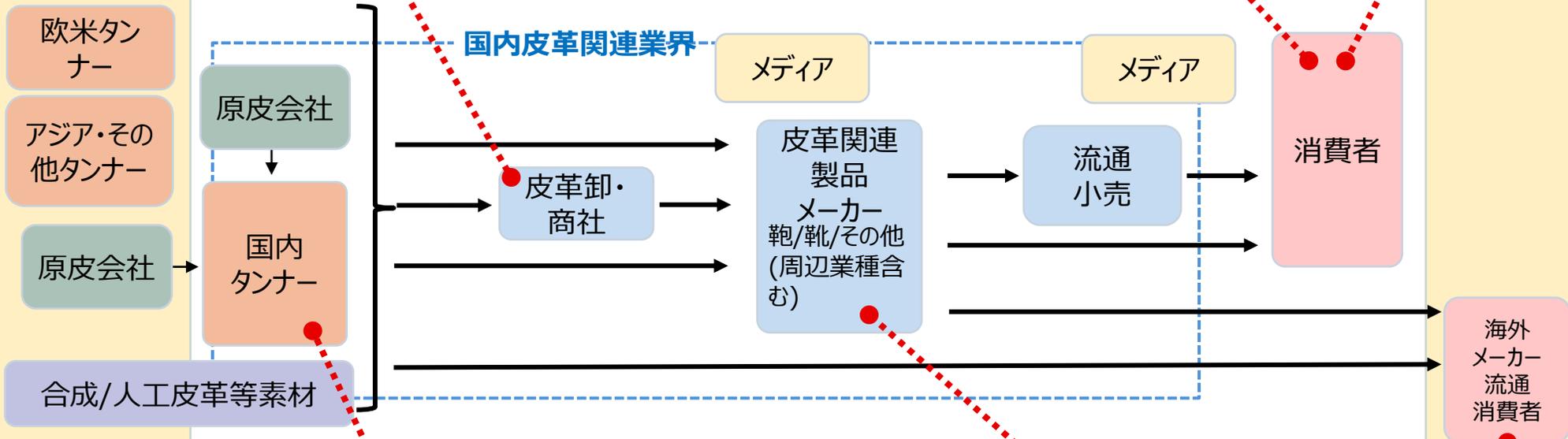
- 皮革卸の減少・弱体化による従来の商流の脆弱化（従来の商品開発、マーケティング、海外展開等の機能の低下・消失）を踏まえた商流のあり方

- 近年のファストファッションの拡大
- 国外ECサイトの席巻
- ファッションのカジュアル化といった消費者の需要変化

- 人口減少による中長期的な市場規模縮小

海外

国内



- グローバル化・低廉な皮革素材の輸入による競争激化、皮革素材単価の低下
- 欧州の皮革素材への対抗力の強化
- 上記と従来の皮革卸が強い商流が相まっての皮革製造業の構造疲弊、競争力（商品開発、マーケティング、海外展開等）の低迷
- 皮革製造・加工の担い手の減少や製造拠点の海外移転
- 上記と中小・零細事業者が多く分業体制構造であることが相まってのサプライチェーンの脆弱性

- グローバルなサステナビリティ配慮要請への強い潮流
- 人材不足

# 将来像・ロードマップの構成要素想定イメージ（案）

## 【将来像・ロードマップの構成要素想定イメージ（案）】

- 国内皮革産業のあるべき姿の定義
- 国内皮革産業のあるべき姿に向けた行動目標・ロードマップの策定

### ① はじめに、目的

(将来像・ロードマップのねらい・位置づけ・期間等)

### ② 国内皮革産業を取り巻く環境変化・課題等

(国内外における政策動向を含む)

### ③ 国内皮革産業のあるべき姿・将来像

(概ね2040年頃を念頭に、国内皮革産業界全体が持続的発展軌道に乗っている将来像・ビジョン、その要件)

### ④ 国内皮革産業のあるべき姿の実現に向けた基本戦略・方針

### ⑤ 基本戦略・方針別の中期目標

(概ね2030年～2032年（令和14）の基本戦略別・方針別の大枠の定量/定性目標)

※可能な限り、下記双方の大枠の定量/定性目標を設定：

- 国内皮革産業の持続的発展の状況・状態を示す指標
- 持続的発展につなげていくための行動・施策の投入水準を示す指標

### ⑥ 主体別の対応方針・施策展開および行動目標の方向性

(中期定量/定性目標を達成していくための皮革関連業種・業態別の役割、対応方針と段階的な施策展開の方向性、これに対応する定量/定性行動目標の方向性（今後、個社単位の目標・指標等も提示できるかも考慮）)

### ⑦ 中期目標達成に向けたロードマップ

(上記⑤⑥の大枠の目標や方向性をもとに業界での具体化を含めた2年程度毎の目標設定、2～3年程度毎の目標達成状況評価等のロードマップ)

### ⑧ 連携推進体制と進捗管理

(この将来像・ロードマップを連携して推進するための体制（経済産業省/業界団体/産地/個社の役割分担・連携体制、ロードマップの進捗管理・PDCAの設定)